

Olympic
Movement

＜平成27年度 ハローオリンピズム事業＞

オリンピック教室

実施報告書

板橋区立板橋第二中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピアン自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 協 力** : 公益財団法人 JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピアンはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成27年4月～平成28年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 30校程度
- 地 域** : 関東近郊及びJOCパートナー都市の中学校を基本とする
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
 ※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備運動



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場した経験等を通して、国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を自身の体験をもとに分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に生かせるような学習内容

座学の時間

挨拶（5分）

自己紹介（5分）

オリンピックの話（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



座学での学習内容の
確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験
に基づく「オリンピックの
価値」等について話す



グループ（個人）ワーク
発表も行う



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



- 期 日 : 平成28年1月12日 (火)
- 場 所 : 板橋区立板橋第二中学校
- ク ラ ス : 2年A組 (35名) ・D組 (35名)
- オリンピック : 荻原 次晴 先生 (スキー・ルディック複合)
- 授業のながれ: 運動の時間 (1時限・3時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認 等



- ・荻原先生から簡単に自己紹介をした後、パネルを用いて競技について説明。
- ・みんなにとってのオリンピックとは何かを考えてみよう授業の目的を伝える。

2. 準備体操 等



- ・スキップ・サイドステップ等を取り入れながら体育館をランニング。
- ・両手間隔に広がって準備体操を実施。



3. 主運動 等



八の字跳び (90秒×2回)

- ・3チームに分かれ、制限時間内に跳べた合計回数を競う。
- ・1チームずつ挑戦し、1回目終了後、60秒間の作戦タイムを取る。荻原先生は各班を回りアドバイスを送る。
- ・2回目は 全てのチームが1回目の記録を超えたため、お互いを拍手で称える。

4. まとめ 等



・次の座学の時間では、運動の時間に感じたこととオリンピックバリューについて考えようと予告し、運動の授業を終了。



■授業のながれ：座学の時間（平成27年1月12日（火）2時限・4限目）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認 等



- ・映像を見せながら、競技と双子の兄健司氏について紹介。
- ・オリンピックを目指すようになったきっかけを話す。

2. オリンピックの価値を伝える 等



- ・オリンピックバリューについて説明。
- ・エクセレンスに当てはまる荻原先生の経験を紹介。「オリンピックに出る」と決意してから、「すべてはオリンピックに通じる」と考え、どんなにづらい練習であっても、誰も見ていなくても、決して妥協せずに継続して努力した。
- ・運動の時間に体だけでなく頭も使って工夫して取り組めたこと、縄を回す人・跳ぶ人がお互いに相手を思いやり、チームワークを意識していたことはオリンピックバリューにつながると話す。



3. グループワーク 等



発問①：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。

発表①：エクセレンス＝チームで作戦を立てて努力した、引っかからないように努力した、跳びやすいように回すことを頑張った

フレンドシップ＝声を掛け合った、他のチームを応援した リスペクト＝自分のチームよりうまく跳べた所を見習った、他のチームの応援をした

発問②：日常生活の中で感じるオリンピックバリューについて考えてみよう。

発表②：エクセレンス＝マイナス発言をしない、今夢中になっていることに一生懸命取り組む、何事も全力を尽くす、毎日部活の練習を頑張る

フレンドシップ＝チームワークを大切にする、誰かがミスしても一人一人の役割をしっかりと果たす、友達や兄弟を大切にする、みんなで協力し合う

リスペクト＝優れている人の良いところを取り入れる、相手の気持ちを考える、両親や先生たちに支えてもらっていることに感謝する

4. まとめ 等



・オリンピックバリューはオリンピックだけの特別なものではなく、みんなの心の中にも存在しているものであり、オリンピックはアスリートだけではなく、オリンピックに関心を持つ全ての人のものだ伝え、東京2020大会を楽しみにしてほしいと伝える。

・口からプラスとマイナスの言葉を「吐き出す」のではなく、プラスの言葉を話すことで夢を「吐く」ことができるようになる。自分もネガティブなことを言わないように心がけた結果、オリンピック出場という夢を叶えることができた。みんなも前向きにがんばろう、と伝え授業を終えた。



- 期 日 : 平成28年1月14日 (木)
- 場 所 : 板橋区立板橋第二中学校
- ク ラ ス : 2年C組 (35名)・B組 (34名)
- オリンピアン : 宮下 純一 先生 (水泳・競泳)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限・5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認 等



・宮下先生から簡単な自己紹介をした後、東京2020大会に向けてオリンピックとはどのようなものかをイメージしながら楽しみにしてほしいと伝える。

2. 準備体操 等



- ・両手間隔に広がり準備体操を実施。
- ・体育館を5周ランニング。



3. 主運動 等



① 鬼ごっこ

・3チームに分かれて鬼ごっこを実施。それぞれタッチできるチームを決め、タッチされたらその場に座る。60秒後に残っている人数の多いチームの勝利。

② 大縄跳び（60秒×2回+決勝戦）

・鬼ごっこと同じチームで大縄跳びを実施。跳び方は八の字跳び、全員跳びから選択。引っかけたらゼロから数えなおし、制限時間終了時に跳んでいた回数を競う。

・計2回実施して上位2チームが決勝戦に進み、3位のチームは応援に回る。

4. まとめ 等



・座学の時間では、宮下先生が人生を懸けてオリンピックを目指した中で学んだことやオリンピックの価値について伝えると予告し、授業終了。



■授業のながれ：座学の時間（平成27年1月14日（木）4時限・6限目）

1. 自己紹介（映像、写真 etc）と授業の目的を確認 等



- ・映像を見せながら、当時の心境や試合の様子について説明。
- ・みんなにとってオリンピックとはどのようなものかを質問し、2020年に東京に来るオリンピックを見て見聞をするのではなく、オリンピックとはどのようなものかを改めて考えてほしいと伝えた。

2. オリンピックの価値を伝える 等



- ・オリンピック出場を目指した中で得られた価値として、エクセレンス=自分を乗り越える、フレンドシップ=友情、リスペクト=尊敬とオリンピックバリューを説明。
- ・B組ではフレンドシップについて、C組ではエクセレンスについて、宮下先生の経験を話す。



3. グループワーク 等



発問：生活の中で感じるオリンピックバリューを考えてみよう。

発表：エクセレンス=できなかったことができるようになる、検定試験に合格する事ができた、中学校に入って一生懸命勉強した

フレンドシップ=友達と応援し合った、悔しい時・悲しい時隣に友達がそばにいてくれた、団体戦でチームメイトと肩を組んで掛け声をかけた、
スポーツを通して友情を深めることができた

リスペクト=支えてくれた友人や家族への感謝の気持ち、憧れの選手のプレーを見たとき

4. まとめ 等



・今年開催されるリオデジャネイロ大会はオリンピックバリューを意識しながら見てほしいと話す。

・東京2020大会にはこのクラスからも選手として参加する人がいるかもしれないし、ボランティアとしても参加してほしい。東京に住んでいるみんながオリンピックについて考えて、盛り上げることが大会の成功につながるため、自分にとってオリンピックとは何かを改めて考えてほしいと伝え、授業を終えた。



■ 集 合 写 真

2年A組



2年D組





■ 集 合 写 真

2年C組



2年B組





■ 記念品贈呈



■ 証明書贈呈

